

令和6年度事業実績

公益財団法人北海道肢体不自由児者福祉連合協会

今年度は、新型コロナウイルスによる活動自粛が回復しつつある中、年末年始における、コロナ及びインフルエンザの流行により、開催を予定していた新年会の中止など計画の変更及び縮小があった。

第1 主な事業実績

1 療育・自立支援事業

(1) 作品コンクール

(一般会計)

「第72回手足の不自由な子どもを育てる運動」の取組として、手足の不自由な子どもの作品及び友情の作品を特別支援学校、小中学校に募集し、応募あった作品を審査の上、優秀作品の表彰・一般展示を概ね例年どおり行った。

・応募期間 8月～11月

・応募状況

□手足の不自由な子どもの部 (作文・詩、図画、書道、手芸工作)

・応募校 8校(前年度 8校) ・作品数 190点(前年度 195)

□友情の部 (作文・詩、図画)

・応募校 4校(" 4校) 総数 ・作品数 84点(" 64)

・入選作品数

□手足の不自由な子どもの部 38点(38) □友情の部 13点(13)

※道など13後援者から表彰状、副賞楯の寄贈

・一般展示 ・令和7年1月27日(月)～1月28日(火)2日間

・道庁本庁舎1階道政広報コーナー ・来場者 246人

(2) 育英奨学金

(育英基金特会)

当協会に置く岩田・アメフト育英基金から、肢体不自由で経済的等の困難な事情にある特別支援学校高等部等の高校生に奨学金交付を例年どおり実施した。

・応募校・生徒数 6校、11人(前年度7校、15人)

・交付 11人(前年度12人)、一人奨学金3万円交付

・交付時期・方法 令和6年9月、在学学校を通じて奨学生に交付

(3) 療育キャンプ事業

(自立支援特会)

在宅の障がい児者及び家族が、専門機関の医師やPT、OT等医療職から、日常生活や社会活動における正しい知識や訓練方法等の指導を受けるとともに、参加者の研修や交流を深める事業の実施を、例年、道立子ども総合医療・療育センター、道立旭川子ども総合療育センターをはじめ特別支援学校、医療福祉機関、ボランティア団体等の協力のもと行った。

実施 10地区 (前年度 10地区)

参加 障がい児者 116人(116人)、家族等 267人(294人)

(4) 自立支援研修事業

(自立支援特会)

肢体不自由児者の自立と社会参加の促進を目的に、地域住民とふれあう中で必要な支援について相互理解を深めるための自立支援研修活動を行う父母の会等に対し助成し、事業の推進と地域住民との貴重な交流の場を提供することができた。

実施 25件 / 13父母の会 (前年度40件 / 20父母の会)

参加 障がい児者 317人(417人)、家族等 989人(1,043人)

(5) ホームヘルパー派遣事業

(自立支援特会)

障がい児者の自立援助及び家族の負担軽減を図ることを目的に協力員ヘルパーを父母の会が家庭に派遣する活動を推進。実績は僅少となり、ボランティアの研修会は開催されなかった。

ヘルパー派遣地区 1地区、派遣延べ47人・20日(前年度 1地区、派遣延べ47人・20日)

研修会 開催なし

2 研修交流事業

(1) 全肢連・北海道ブロック地域指導者育成セミナー (自立支援特会)

父母の会の活動を担うリーダーを育成し活性化を図ることを目的として、全肢連主催の全国7ブロック別研修会の北海道ブロックとして開催した。

テーマ 「障害者福祉サービスの給付状況・補装具・日常生活用具の選定状況・災害時個別避難計画策定」

日時 令和6年7月6日(土)13時00分～ 7日(日)12:00

場所 道立道民活動センター 会議室 参加者 35人、講師・主催側9人

(2) 父母の会会長・事務局長会議(研修) (自立支援特会)

協会・父母の会の活動に資するため、福祉制度・施策や先進事例等の研修を行い、あわせて、活動における諸課題の解決に向けた意見・情報交換を行った。

日時 令和6年7月8日(日)9時～12時00分、令和7年1月24日(金)13時00分～16時00分

場所 道立道民活動センター 1030会議室、610会議室

参加 11父母の会 20人 10父母の会 12人

(3) 施設職員等研修会 (一般会計)

肢体不自由児通園施設、特別支援学校等の職員を対象に障がい児療育に係る知識、技術の修得・向上を目的とする研修会を、子ども総合医療・療育センターの協力により開催した。

日時 令和6年9月28日(土)13時～17時 参加 発達支援センター職員など67人

開催方法 実地(コドモックル)及び一部オンライン研修

(4) 第33回全道肢体不自由児者福祉大会(釧路)

「安心・安全な地域社会を紡ぐために」～地域格差をなくして～をテーマとして開催。在宅重度障害児者の短期入所の現状、「障害児から成人期の移行医療」などの講演により参加者がそれぞれの内容について情報の共有化を図るとともに、課題の解決に向け、大会決議文が採択された。

日時 令和6年9月7日(土)～8日(日)

場所 釧路市生涯学習センター(まなぼつと幣舞)

参加 120名

(5) 全国大会参加 (一般会計)

令和7年度の北海道での全国大会を開催を控え、会場の視察を含め、全国の父母の会会員との交流を目的に、全国大会(奈良県)に参加する経費の一部を助成した。

日時 令和6年9月14日(土)12時～15日(日)11時50分

場所 奈良100年会館 参加 来場6人

3 情報提供・啓発事業

(1) 「手足の不自由な子どもを育てる運動」の推進 (特別会計)

日本肢体不自由児協会が作成する「絵はがき」、「クリアファイル」の頒布・寄付を広く道内の団体・法人、企業、行政機関等に通じて肢体不自由児者に対する理解と啓発に努めた。

活動期間 7月～12月

(2) 会報『道肢連協』の発行 (一般会計・自立支援特会)

当協会や父母の会における各種の活動のほか、有識者や当事者、関係者の声、情報などを広く紹介する会報を年4回発行した。

(3) ネット活用

ホームページによる当協会の情報発信及び行政や関係団体からの情報を父母の会関係者に電子メール主体での適宜の提供・伝達に努めた。

第2 協会運営及び財源確保の取組

【協会運営】

理事会5回、定時評議員会1回、会長・副会長会議を適宜開催・実施した。

【協会の運営、事業実施の財源】

・父母の会の会員数の減少と父母の高齢化により、自立支援事業の縮小や会を解散するケースがあり、今後、これらの対応策の検討が必要となってきた。

・絵はがき等の寄付金収入も減少傾向となっている。

・飲料水の自販機売上還元金については、通常年ベースに近づいているなど、回復傾向にある。